

## 令和元年度第1回平塚市食育推進会議 会議録

日 時 令和元年（2019年）8月1日（木） 午後2時から3時10分まで  
会 場 保健センター3階 会議室1、2  
出席者 森政委員、小林委員、高橋委員、江原委員、三浦委員、中久喜委員、杉山委員、久松委員、  
倉田委員、松本委員、川畑委員、栗原委員（計12人）、事務局

### 1 開 会

本会議は平塚市情報公開条例第31条に基づき、原則公開となる。会議終了後には、会議録をホームページに掲載する。本日、傍聴者なし。河口委員、松本委員、加来委員より欠席連絡あり。

#### (1) 委員改選に伴う委嘱状の交付について

#### (2) あいさつ 健康・こども部長

この平塚市食育推進会議は、平成17年に施行された「食育基本法」に基づく市町村の個別計画の策定のため、平成19年度に「平塚市食育推進委員会」として発足しました。この委員会で審議した内容をもとに、平成22年3月に「平塚市食育推進計画」を策定し、その後、平成25年度に「平塚市食育推進会議条例」を制定してからは、名称を「推進会議」に改め、「計画」の改定の審議や、実施の推進を目的として開催してまいりました。

本市では平成28年6月議会で、「健康づくり推進条例」を制定し、平成28年10月から施行いたしました。この条例は、本市における健康づくりの基本理念や、健康づくりの推進に関する8つの施策などについて規定しております。その施策の一つに「栄養及び食生活に関する施策」を位置付けており、具体的な事業については平成27年3月に策定しました「第2次平塚市食育推進計画」により、取り組んでおります。今年度は、10年計画の5年目に当たり、中間年を迎えることから、5月に市民アンケート調査を実施いたしました。結果をもとに事業の進捗度を確認し、次年度以降の食育事業の展開を検討し、中間評価結果を公表していきたいと考えております。

本日は皆様方の、専門的な、また、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見をいただきますよう、活発な御審議を、お願い申し上げまして、挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

#### (3) 委員自己紹介

#### (4) 会長・副会長の選出

### 2 議 題

(1) 食育推進計画の事業に関する調書（平成30年度実績・令和元年度展開）について（資料1）  
<事務局>

議題に入る前に、今年度、新たに会議委員になられた方も多いため、この計画について簡単に御説明いたします。

食育推進計画は、国が平成17年に食育基本法を制定し、平成18年に施策推進のための食育推進基本計画を策定しました。それに伴い、神奈川県が平成20年に神奈川県食育推進計画を策定し、本市が平成22年に平塚市食育推進計画を策定しました。基本理念は「みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来」とし、5年間の計画期間を経て、平成27年3月に第2次平塚市食育推進計画の策定となりました。第2次計画では、計画書P34に記載されている通り、5つの基本方針に7つの基本施策を掲げ、基本施策ごとに具体的な取組みと評価指標があります。その、評価指標を達成するための具体的な取組みとして関係各課で実施している事業をP35以降に掲載しています。本計画で実施しているそれら事業の多くは各主管課が食育以外の目的で実施・展開されているものが大半であり、そのため、掲載されている事業のなかで食育の視点での効果を確認し、食育推進計画の指標を意識して事業を取組んでいけるよう、関係各課には庁内で実施する食育推進計画進行会議や文書などで意識付けを行っています。

委員のみなさまには、本計画の計画書の内容を御確認いただき、本市が取り組んでいる事業の進捗などについてこの会議の場で御意見をいただきたいと考えています。また、所属されている団体の中でも本計画の推進につながるような取組みがあれば、是非御報告いただきまして、平塚市全体で食育の推進ができればよいと考えています。なお、この会議の中でいただいた情報の中で、委員の方々の連携や、本市と各団体との協働事業などが展開できればと考えています。

では、平成30年度平塚市食育推進計画の事業に関する調書・令和元年度取組概要について説明と本計画の評価及び進捗管理について説明に入ります。

本計画の指標の評価は市民への実態調査で行います。計画指標は計画書のP35以降、7つの施策分野ごとに設定し、その達成度を評価します。実態調査は計画期間中に2回とし、その1回目として令和元年5月に中間評価を実施しました。平成36年には最終評価を行う予定です。

そのため、年度ごとの各取組み事業の進捗管理は、食育推進計画の事業に関する調書を作成し、本会議にて報告しています。報告の内容は、計画事業の内容と事業実績、食育としての効果、次期取組の展開、改善、工夫となっています。計画事業の内容は、各担当課が年度ごとに事業の見直しを行うため、事業内容が変更になることがあります。委員の皆様には、この取組みについて御確認をいただき、御意見をいただきたいと考えております。

それでは、本計画書のP35以降に記載されている基本施策ごとの取組み事業について、平成30年度の実績を何件か抜粋してご報告させていただきます。

基本施策(1)家庭における食育の推進[計画書P35]では、評価指標「朝食を欠食する市民の割合の減少 子ども[小学生]、20歳代～30歳代 男性」「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数(1週間)の増加」「(全施策共通指標)食育に関心を持っている人の割合の増加」とし、平成30年度は4つの具体的な取組、14の事業に取り組みました。担当課は健康課、こども家庭課、保育課です。

取組の1にあるこども家庭課事業「こども総合相談」や取組の2にある保育課事業「子育て支援事業」

では地域施設での相談や講座により食育推進が図られました。

取組の3にある健康課事業「乳幼児健診・育児相談」では、個別相談にて子育て世帯への朝食摂取、共食の推進等食育を実施しています。なかでも、平成29年度より設置されている「子育て世代包括支援センターネウボラルームはぐくみ」での相談は29件でした。令和元年度は新たに嘱託栄養士1名の配置があり、母子手帳の発行の際の妊娠中の食事の相談や、上の子の離乳食や幼児食の相談を実施する機会が増えています。令和元年6月末現在、合計120件の相談を実施しており、新たな家庭を築き上げる時期に相談体制や食育情報提供の充実をさらに図れるよう取り組んでいます。

基本施策（2）学校・保育所等における食育の推進〔計画P38〕では、評価指標を「食に関する年間指導計画を策定している公立小中学校の割合」とし、平成30年度は3つの具体的な取組み、9つの事業を実施しました。主な担当課は教育指導課、学校給食課、保育課、学務課です。

取組の1にある教育指導課事業「食に関する指導」では、各小中学校における食育全体計画の作成および、各校に食教育担当教員を配置し、栄養教諭や学校栄養職員と連携しながら食教育を行いました。6月には食教育担当教員と栄養教諭、学校栄養士が集まり食教育担当者会議を実施し、情報の共有を行っています。なお、全小学校中学校における年間指導計画の策定は100%であり、令和2年度以降には、教育指導要領改訂に伴う食教育の充実がさらに図られる予定です。

取組の3にある学校給食課事業「食に関する指導」では中学校での指導件数308回と、前年度254回より増加し、中学校教諭とともに栄養教諭、学校栄養職員が食教育を実施しました。

取組の5にある学校給食課事業「学校給食地場産野菜等使用推進事業」では、湘南農業協同組合や市内販売業者等の協力のもと、給食食材における地場産品使用推進を行っています。平塚市では野菜だけではなく、畜水産品や加工食品の地場産品も多く取り入れ、給食時には各クラスの配膳台へ地場産品使用を知らせるポスターを掲示、給食放送や家庭への給食だよりで周知するなど、居住地域からの恩恵や感謝の気持ちを育む食教育を行いました。

取組の9にある保育課事業「開放保育」では、来所者に対し、保育園発行の給食便り配布、給食の展示、簡単クッキングの事業実施などを行いました。

基本施策（3）地域における食生活改善のための取組みの推進〔計画P41〕では、評価指標を「野菜を350g食べている人の割合の増加」「よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の増加」「健康的な食事内容を心がけている人の割合の増加」「(再掲)食育に関心をもっている人の割合の増加」とし、平成30年度は3つの具体的な取組、13の事業を実施しました。担当課は健康課、地域包括ケア推進課、公民館、市民情報・相談課、健康課です。

取組の1にある健康課事業「健康教育〔疾病別〕」にある健康教室の中で、糖尿病重症化予防事業を平塚市医師会の協力のもと平成28、29年度に続き3年目事業として実施しました。この教室は、血糖値が要治療域であるHbA1cが6.5%以上の方を対象に、保健師406件の家庭訪問を行い、181人の方が参加、延べ6回の教室を保健師と管理栄養士で開催しました。教室期間中に1度血液検査を行い、HbA1cの変化を確認し、改善した割合は84.3%となりました。この教室の中では、特に食事のとり方、野菜を350g以上食べることや、主食・主菜・副菜がそろった健康的な食事を心がけることなどを重点的に

お話しする中で、血糖値の改善という成果につながりました。また、平成29年度参加者のフォロー教室を3回延べ73人、平成28年度参加者のフォロー教室を2回延べ56人に対し、継続的な支援を行いました。令和元年度も同様に実施予定です。

取組の8にある健康課事業「歯科健康教室」では平塚市歯科医師会の協力のもと生活習慣病予防につながる健康づくりのための食育を実施しました。

取組の13にある「公民館事業での食育推進」では、市内地区公民館で独自に事業を実施しました。例としては、平塚農業高校の男子生徒が講師となり、ベジブロスやフードロスの講話を行いました。令和元年度も食育関連団体や関係課と連携し、食の安全や食生活改善の内容を取り入れた事業を実施する予定です。

基本施策（4）食育推進運動の展開〔計画P44〕では評価指標を「食育ボランティアの活動の充実」「(再掲)食育に関心をもっている人の割合の増加」を計画指標として、2つの具体的な取組み、3つの事業を実施しました。担当課は健康課です。

取組の1, 2にある「食生活改善推進員の養成」「食育に関するボランティアへの育成と活動支援」では、地域で活躍していただく食生活改善推進員の方々と協力し、活動を行う上で必要な人材の養成、新しい情報の提供などを行いました。

取組の3本会議も食育活動の情報提供の共有化を図り、食育推進の状況把握や今後の展開を検討するための会議として、平成30年度は2回開催しました。

基本施策（5）生産者と消費者の交流の促進及び環境との調和のとれた農水産業の活性化〔計画P46〕では評価指標を「地元産の農水産物の優先的な購入・使用の増加」「農林漁業体験をしたことがある人の割合の増加」「(再掲)食育に関心をもっている人の割合の増加」とし、平成30年度は5つの具体的な取組み、10の事業を実施しました。担当課は農水産課、産業振興課です。

取組1の～4, 10の農水産課、産業振興課事業では、地場製品のPR及び購入できる場所の提供や情報提供を実施しています。各事業において、市民へ地場製品の魅力を伝え、利用促進を図る工夫を実施しました。

取組の5～10では、農林漁業体験を行う場を提供し、地場産業への理解を深める食育が実施されました。また、本書には掲載されていませんが、産業振興課が実施した「産業間連携プロジェクト」において、漁業協同組合と商店の連携促進を図り、「平塚のシイラプロジェクト」が実施されました。一般的には流通しないような魚も活用しようという動きのもとで検討され、平塚で水揚げされる「シイラ」を原材料としたメンチカツを商品化し、市内商店で販売しています。

基本施策（6）食文化の継承、展開のための活動の支援〔計画P50〕では、評価指標を「食育を唱えた村井弦斎の認知率の増加」「(再掲)食育に関心を持っている人の割合の増加」とし、平成30年度は3つの具体的な取組み、4つの事業を実施しました。担当課は社会教育課、学校給食課、公民館、健康課です。

**取組の1** 社会教育課が実施の「村井弦齋まつり」は、村井弦齋まつり実行委員会を設置し、準備運営が行われました。食道楽レシピ再現料理の試食や平塚産農産物PRキャラクターベジ太が参加し、村井弦齋の食育の思想の継承を図ることができました。令和元年度は9月22日に実施予定、実行委員会にて20回記念行事を企画中です。

**取組3** 学校給食課実施の「学校給食における食文化の継承」では季節の行事食等実施しています。また、記載はありませんが「弦齋カレースクールランチ風」を年1回程度実施、食育を唱えた平塚ゆかりの人物として村井弦齋を紹介しています。

基本施策(7)食の安全性、栄養・その他食に関する調査、情報提供[計画P52]では評価指標を「(再掲)食育に関心をもっている人の割合の増加」とし、平成30年度は2つの具体的な取組み、2つの事業を実施しました。担当課は市民情報・相談課、学校給食課です。

なお、令和元年度の展開ごとの概要については、調書の「とりまとめ一覧P1」をご確認いただければと思います。

<会長>事務局より説明がありましたが、委員より質問、御意見ございますか。本日御出席の委員所属の団体が連携する事業も多数ございました。

<栗原委員>2点ございます。

1点目として第2次平塚市食育推進計画冊子P50「基本施策(6)食文化の継承、展開のための活動の支援【現状と課題、計画指標】」内の10行目に記載されている「~その跡地は『村井弦齋公園』として」部分について、厳密にいきますと「その跡地の一部は」が正しい表現となります。

2点目として、平成30年度取組「基本施策(3)地域における食生活改善のための取組の推進**取組の13**」にて、平塚農業高校学生が講師となっておこなった食品ロスの講座について紹介がありましたが、国の第3次計画では食品ロスについて、かなり明確に唱っていること、中学校教科書でも食品ロスについて取り扱っています。本市計画では文書として掲載がありませんので、何かの形で反映されるよう、中間評価ではありますが、検討されるとよいと感じました。食品ロスを管轄する部門、環境部などの協力が必要となるかと思えます。飽食の時代にありますが、食べ物を大切にすること、廃棄を少なくすることは食育の中で重要と考えます。

<会長>非常に細やかにご覧いただきありがとうございます。食品ロスについては、どこかで触れていただけると、講座などを実施されていることの意味が深まるのではと思いますが、いかがでしょうか。

<事務局>食品ロスは議会でも論議されている重要な問題と認識しております。計画が第2次とあり、中間評価の段階でありますので、評価の中で食品ロスの視点が入られるよう検討したいと思います。

(2) 中間評価アンケート結果[速報]について(資料2)

## <事務局>

前期の会議においてアンケート内容を検討し、調査期間を令和元年5月8日から31日、無作為抽出の20歳以上の市民3000件に対しアンケート調査を実施しました。有効回答数は1,270件（回収率42.3%）でした。

本アンケートが平成26年度に実施した前回アンケート調査と異なる点を最初にご説明します。

前回アンケートは第1次食育推進計画の評価を目的とし、調査対象を0歳から74歳までを対象に3000件の調査を実施しました。その後改訂しました第2次食育推進計画の評価指標は20歳以上を主とし、小学校、中学校の年代に対する評価指標は他の調査データより評価することとしたため、令和元年度実施の中間評価アンケート調査では対象を20歳以上と変更しております。

また、今回の中間評価アンケートは本市健康増進計画の評価を同時期に実施ということより、アンケート調査をあわせた形で実施しております。

その結果、前回の評価アンケート有効回答数1,237件（回収率41.2%）と若干増加しました。

フェイスシートにあります、性別・年齢別回収結果、地区別回収結果、職業、家族構成についてはご確認ください。

それでは、アンケート調査設問中、食育推進計画評価に係る項目の集計結果を抜粋してご報告します。

### 問5 あなたが朝食を食べる頻度はどのくらいですか。

基本施策（1）「家庭における食育の推進」、指標「朝食を欠食する市民の割合の減少」を評価するための調査項目です。20代、30代の朝食摂取頻度を調査結果より得ることができます。

### 問6 あなたは朝食を同居の方と食べるのはどのくらいありますか。

### 問7 あなたは夕食を同居の方と食べるのはどのくらいありますか。

基本施策（1）、指標「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる『共食』の回数（一週間）の増加」を評価するための調査項目です。

単純集計の調査結果を示しているため、朝食の回数、ならびに朝食、夕食の共食の回数については、中間評価実施時にご報告します。

### 問19 なんでもよくかんで食べることができますか。

### 問20 あなたは噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。

基本施策（3）「地域における食生活改善のための取組みの推進」、指標「よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合の増加」を評価するための調査項目です。

回答として「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた回答が64.7%と前回評価値とほぼ同じ結果という速報値です。

**問24** 「食育」について関心がありますか

基本施策（1）（3）（4）「食育推進運動の展開」（5）「生産者と消費者の交流の促進及び環境との調和のとれた農水産業の活性化」（6）「食文化の継承、展開のための活動の支援」（7）「食の安全、栄養・その他食に関する調査、情報提供」、策共通指標「食育に関心をもっている人の割合の増加」を評価するための調査項目です。

回答として「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた回答が67.5%と前回評価値とほぼ同じ結果という速報値です。

**問25** 毎日の食生活で、健康的な食事内容を心がけていますか。

基本施策（3）、指標「健康的な食事内容を心がけている人の割合の増加」を評価するための調査項目です。

回答として「はい」の回答が77.0%、前回評価値より減少という速報値です。

**問26** 具体的にどのような食事をこころがけていますか。

（問25で「はい」と答えた方で集計、複数回答）

複数回答のため、それぞれの回答での回答率が大きくなっています。多い回答として「毎食野菜摂取」や年齢が高い世代では「塩分を控える」が高い数値でした。また、メディアでとりあげられた内容を実施しているという「その他」でのフリーコメントも多くあり、多くの市民が食に関心を持っている様子が伺えました。

**問27** 日頃、野菜やいも、海藻、きのこなどが主に入る料理をどのくらい食べますか。

（1日の合計皿数で集計）

基本施策（3）、指標「野菜を1日350g食べている人の割合の増加」を評価するための調査項目です。

アンケート作成の際も、検討を重ねていただいた質問です。回答については、朝ごはん〇皿、昼ごはん〇皿、夕ご飯〇皿、と回答いただいたものを合わせて1日分の合計で集計しています。集計結果としては、20代は1日トータルでも、1～3皿程度の摂取、年齢が上がるにつれて摂取皿数が増加、という傾向が伺えました。また、委員より、質問自体が難しいとご意見をいただき、調整を重ねて作成、実施しましたが、市民からも「質問が難しい」とう意見や空欄回答が多く、80代では3人に2人（61.1%）が未回答という結果でした。最終評価アンケートを実施する際には、御意見をいただき、評価方法を検討したいと思います。

**問28** 食品を買う際、どんなことをきにしていますか。（複数回答）

担当課でアンケート調査掲載を希望した項目です。

**問29** 農水産物を購入する際、地元産を優先したいと思いますか。

基本施策（5）、指標「地元産の農産物の優先的な購入・使用の増加」を評価するための調査項目です。

「優先したいと思う」という回答が50.1%であり、前回調査の53.1%より若干の減少とい

う速報値です。

**問30** 地場産品を使うことの利点は何だと思えますか。(複数回答)

「新鮮」「生産者がわかる」という回答が多いほか、その他の意見として「生産者を応援したい」「市の活力になりたい」といったものがありました。

**問31** ひらつかでとれる地場産物(農水産物)で思い浮かぶものはありますか。(複数回答)

「お米」については銘柄が記載されているものもまとめました。前回アンケートよりも「しらす」の回答が多数のほか、多くの農水産物が挙げられました。

**問32** どれくらいの頻度で魚を食べていますか。

担当課でアンケート調査掲載を希望した項目です。

**問33** どれくらいの頻度で野菜、果物、花などの農産物を購入できる直売所を利用したことがありますか。

担当課でアンケート調査掲載を希望した項目です。

「その他」の意見として、回答項目ほど利用頻度は多くないが、「何か月に1回、年に1回利用する」や「スーパーなどの地場産コーナーは利用する」「近くに直売所がない」というものがあった。

**問34** 「村井弦斎」という人を知っていますか。

基本施策(6)、指標「食育を唱えた村井弦斎の認知率の増加」を評価するための調査項目です。

「知っている」の値が35.5%であり、前回値よりも増加、目標値に達しているという速報値です。「名前だけは知っている」という値も合わせると、かなりの認知率となり、学校教育や商業分野など様々な分野で普及がされている感じます。

**問35** 農林水産業の作業などを体験したことがありますか。

基本施策(5)、指標「農林漁業体験をしたことがある人の割合の増加」を評価するための調査項目です。

「ある」の値が66.7%であり、前回値よりも増加、目標値に達しているという速報値です。

**問36** 本市の「健康づくり事業」「食育」について、御意見・御要望があれば、お聞かせください。

フリーコメントを項目ごとに年代別でまとめ、資料に掲載しました。食育についてのコメントとして多いものは「地産地消」「学校教育での食育」「学校給食」などです。

また、「直売所が多く場所に欲しい」「食品ロス」なども御意見がありました。何点か抜粋し意見を紹介します。

○どのような世帯条件においても地場産品とふれ、摂食する機会を持つことが重要と考えます。生活格差による健康格差なくなるような支援を行政に望み、市民活動につながる機会をつくってください。

- 子どもの頃の食育は、大人になってからも大きく影響する大切なものだと考えます。小学校だけでなく、中学校も給食を実施してほしいです。
- 食物廃棄の問題も食育の一つだと思う。日本中で一番優れた循環型社会を作った市として知られるような町づくりに取り組んでいただきたい。
- できるだけ地元産の農水産物を買いたいと思うけど、少し割高ですね。
- 新鮮で安全性もありよいと思うが、近所に直売所がない。
- 安くても輸入品は買わないようにしている。
- 50代になり、健康を気遣う年代になりました。自分の体は食べたものでできているので、若いころからしっかり食育することが大切だと思います。
- 子どもの成長期に食育が大切なので、成長期の子どもを持つ親世代の方たちにたくさん知ってもらいたい。また、これからは高齢者の方たちへの食事についても、メニューの提供や負担の少ない簡単にバランスのとれる料理の紹介等があるとよいと思います。
- 野菜嫌いの息子は私が勧めても決して食べないのに、調理実習で小松菜のお浸しを食べたことをきっかけに家でも食べるようになりました。家庭以外の経験は意外と素直に入るチャンスなのかもしれません。そういったイベント等ありましたら、ぜひ参加したいです。
- 医食同源ということで、年代別に積極的に摂取した方がよい栄養や体操などを広報などで紹介してもよいかもしれません。そのようなイベントがあれば参加したいです。

一部ですがご紹介しました。

実際に健康課で実施した「親子で作ろう朝ごはんクッキング」でのアンケートでも「家庭では時間がなく、料理をいっしょにしていなかった、包丁を握らせることなどしていなかったが、よいきっかけになった。」「これからいっしょに作りたい。」「野菜嫌いなのに自分でつくったことで食べられた。」という感想が多く寄せられました。どの世代にも関わるのが食育であることを、今回の評価アンケートでも実感しました。アンケート速報についての報告は以上です。

<会長>事務局より説明がありましたが、委員より御質問、御意見ございますか。

<栗原委員>市内で飲食業に携わっている方の話では、「地元産の食材を使いたいがなかなか、農家とのパイプが確保できない」、「一定量の需要がないと農家も卸してくれない」など。また、農家が自分の身内もいることもあり聞く意見としては、「地元で売ると高く売れない」といい、市外に流通する量が多くなってしまうということです。自分も地元の郷土史を行っていることより知ることとしては、もともと平塚の農業は近郊農業であり、東京や横浜など大消費地に向けて出荷するために品種改良を繰り返してきたことが農業の発展につながったという歴史があります。地元流通では割高になるという意見もあり仕方がないことだと思いますが、農家の経営が成り立つ視点も大切であります。後継者不足もありますので、継続的に地産地消が成り立つよう、消費者側の認識も必要であると感じます。

<会長>貴重なご意見をありがとうございます。アンケート項目を考える段階でも委員の皆様から多くの意見をいただきました。いくつかの回答では前回値よりも高い数値を得たものもありました。また、有効回答数が40%を超えている点も行政アンケートでは回答数が高く、市民の皆様興味関

心が高い調査であったと推測されます。最後に御紹介いただいたフリーコメントにもそれが表れていると思います。また、今回の速報値から中間評価につなげていけるように、御意見をいただいきたいと思います。

(3) 令和元年度の予定について (資料3)

<事務局>

平塚市食育推進会議の今後の予定は、12～1月に中間評価報告(案)の御検討をいただくための資料をお送りさせていただきます。2月には今年度2回目となる会議を開催し、「各指標における中間評価の報告(案)について」「ホームページ最終案について」「令和2～6年度の取り組みについて」を協議いただきたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。最終的には3月に中間評価結果をホームページに公表予定です。

3 その他

追加討議、連絡事項等 なし

4 閉会

以 上